

2025 10月

鷹栖町図書室に新しく入った本

(9月分より)



☆新しく入った本は他にもございます。図書室では新着図書のリストを配布しております。また、鷹栖町図書室の蔵書検索から探すこともできます。



たかす(一般)

『楽園の瑕』(相場英雄/小学館)

『給水塔から見た虹は』(窪美澄/集英社)

『ピザトーストをひとりで食べる』(加藤千恵/幻冬舎)

『カナエトメイ 怪奇専門探偵事務所』(嗣人/産業編集センター)

『絵の具がかわくあいだ』(いせひでこ/講談社)

『コマネチのために』(チョナムジュ/筑摩書房)

『大日本いじめ帝国』(荻上チキ/中央公論新社)

『渴愛 頂き女子りりちゃん』(宇都宮直子/小学館)

『「使い切る」ソーイングと暮らし』(美濃羽まゆみ/主婦と生活社)

『リボンちゃん』(寺地はるな/文藝春秋)

『独り言の多い博物館』(標野凧/幻冬舎)

『エンドロール』(今野敏/毎日新聞出版)

『小泉八雲の怪談』(小泉八雲/理論社)

『ロバのクサツネと歩く日本』(高田晃太郎/河出書房新社)

『もう迷わないニトリで解決! 劇的ラク家事アイテム教えます』(おちび/主婦の友)

『農業ビジネス』(山口亮子/クロスメディア・パブリッシング)



たかす(児童)

『みてみて!』(小西貴士/福音館書店)

『いちにのさん!』(スギヤマカナヨ/童心社)

『100このタネがとんでった』(河野ヤラ政枝/岩波書店)

『こだいのなぞとふしぎのずかん』(五十嵐美和子/白泉社)

『クロニクル千古の闇 9』(ミシェル・パイヴァー/評論社)

『みんなが知りたい! 花火のすべて』(日本煙火協会 監修/メイツユニバーサルコンテンツ)

『かっぱおんせん、あわあわあわ』(高島那生/ひさかたチャイルド)

『ぶたすけのラッパ』(柴田ケイコ/ポプラ社)

『せんめんじよできっちゃん』(ザ・キャビンカンパニー/ブルーシーブ)

『さくらうまのトドロ』(バッチジャルガル・バヤスガラン/リーブル出版)

『AIロボット世界のサバイバル 2』(ゴムドリco./朝日新聞出版)

『クルマのへえ〜事典』(緒方昌子/交通新聞社)

きたの(一般)

『情熱』(桜木紫乃/集英社)

『青の純度』(篠田節子/集英社)

『焦げついた影』(カミーラ・シャムジー/早川書房)

『とてもしずかな心臓ふたつ』(村上きわみ/左右社)

『シェルパ齊藤の還暦ヒッチハイク』(齊藤政喜/産業編集センター)

『死刑囚と家族になるということ』(月刊「創」編集部編/創出版)

『ネコは(ほぼ)液体である』(服部円/KADOKAWA)

『蛍たちの祈り』(町田そのこ/東京創元社)

『中にいる、おまえの中にいる。』(歌野晶午/双葉社)

『わたくし96歳が語る16歳の夏』(森田富美子/KADOKAWA)

『ChatGpt120%活用術』(ChatGptビジネス研究会/宝島社)

『ストレートネックの治し方』(酒井慎太郎/内外出版社)

『発明で食っていく方法、全部描いた。』(小川コータ/家の光協会)

『ラストインタビュー 藤島ジュリー景子との47時間』(早見和真/新潮社)

きたの(児童)

『ふわふわきらり』(さみぞみちこ/講談社)

『いくぞ〜ヒトデのほし』(ともながたろ/アリス館)

『うつし屋と大小屋』(廣嶋玲子/静山社)

『部活をがんばる中学生のための勉強法』(鎌田則和/秀和システム)

『点字を学んでみよう』(日本点字委員会 監修/国土社)

『ぼくのいえ』(鈴木のりたけ/PHP研究所)

『あらしの島で』(シドニー・スミス/偕成社)

『おれたちのラストイヤー』(マット・グッドフェロウ/評論社)

『マンガで読む学校であった怖い話 朽ち果てる放課後』

(西島ユタカ 監修/池田書店)

ほか

~鷹栖町図書室の本はふるさとまちづくり応援寄附事業の寄附金を活用して購入しています~

図書室だより

9月20日(土)は、鷹栖町図書室ワークショップ「鷹栖百年地図をつくろう!」を行いました。参加されたみなさんの記憶や、郷土資料を参考にしながら、地図を作成!懐かしい写真や当時のお話に花が咲いていました♪



9月の本棚リレーは西中裕一さんと実習生でした。



9月の「音楽のある図書室」は菊地美由紀さんによるギターとつたでした。